



HAN 版 FAN

Vol. 53

2016年8月
～2017年1月号

デイヴィッド・ホックニー版画展

2016年10月1日(土)～11月23日(水・祝)

※月曜休館 ただし10月10日(月・祝)は開館、10月11日(火)は休館
一般＝800(600)円、大・高生＝400(300)円、65歳以上＝400(300)円
10/1(土)(展覧会初日)は無料、()は20名以上の団体料金

この秋、20世紀を代表するイギリスの美術家デイヴィッド・ホックニーの版画展を開催いたします。たぐいまれな「変貌」によって多くの人々を魅了してきたホックニーの版画制作を、東京都現代美術館から多数の所蔵品を拝借して、総数約150点で回顧するものです。

ホックニーは1937年にヨークシャーのブラッドフォードで生まれ、1959年に王立美術学校へ入学しました。在学中の1961年にはニューヨーク近代美術館のキュレーターだったウィリアム・リーパーマンがその才能を認めて、銅版画(エッチング)2点を美術館のコレクションとして買いあげています。1962年には王立美術学校を首席で卒業して表彰され、賞金をもとに旅行したニューヨークでアンディ・ウォーホルやメトロポリタン美術館キュレーターのヘンリー・ゲルツァーらと出会います。金髪で丸眼鏡をかけたホックニーは「ポップ・アートの旗手」としてもてはやされ、早くから大きな注目を集めました。



「みつめるシリーズ」1976年 銅版画

1960年代なかばに拠点をロサンゼルスへ移すと、カリフォルニアの明るい光のなかで大きく作風を変えて、色彩豊かな大型作品へ移行します。版画工房の刷師たちとのコラボレーションも、彼にあらたな転機をもたらしました。愛する家族や友人たちの肖像、旅先の風景、室内に飾られた花や椅子など、何気ない日常のひとつひとつの場面が版画作品として作り上げられてゆきます。

ホックニーは絵画や版画、写真、そして舞台美術にいたるまでの多彩な制作活動をおこなっていますが、なかでも版画は、敬愛するピカソと同じく10代で手がけてのち、継続的に熱心に取り組んだ重要なジャンルということができます。好奇心と探究心の強い彼が、さまざまな版画技法や複雑な制作過程に大いに刺激を受けたことは言うまでもありません。コピー機で作る「ホームメイド・プリント」やファクシミリの「アート」を開発し、近年ではコンピュータやモバイル端末を巧みにもちいたドローイングを制作して話題を呼んでいます。

この展覧会ではホックニーの版画制作の足跡を振り返り、その魅力を分析するとともに、通底する彼の芸術観を読み解いてゆく予定です。ぜひお楽しみに。

(学芸員 高木幸枝)

〈有料の展覧会について〉

※中学生以下は入場無料 ※身体障がい者手帳または愛の手帳をお持ちの方と付き添いの方一名は入場料は半額 ※友の会会員は会員証を提示すると無料
〔休館日：月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)、7月19日(火)・9月20日(火)・10月11日(火)〕

～まちだゆかりの作家～松本 旻^{あきら}

9月24日(土)～12月25日(日)

2020年東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムに向けて、当館では町田市ゆかりの美術家を紹介する展覧会シリーズを実施します。第一弾として取り上げるのは松本旻(1936～)です。大阪府出身の松本ですが1970年から98年まで町田市で暮らしており、その期間は版表現の特質や作者の痕跡を消す、自身の表現スタイルを確立した時期と重なります。

浮世絵の摺師として働くなかで版画への関心を深めた松本は、初期は木版による抽象表現に取り組みます。独自の表現が際立ってくるのは、70年代はじめの風景を題材とした作品群からです。例えば〈風景から〉シリーズでは稜線で空と地面に二分された写真から印刷物の基本要素である網点を抽出することで、画面を点の配置に還元し風景の意味性を無化します。70年代後半からはじまる〈配色〉・〈順列〉・〈転回〉シリーズでは画面の要素は独自のルールに基づいて並べられた色点のみとなります。今回展示する〈転回〉シリーズは、正方形の版を90度ずつ回転させ4色で刷り重ねていく作品で、作家の「システム」に基づいた作品群の集大成のひとつです。初期から近年までの作品の変遷を追い、その軌跡をお楽しみいただければ幸いです。

(学芸員 町村悠香)



上：松本旻「風景から 4-L」
1974年 スクリーンプリント
下：同「風景から 4-L」
1974年 スクリーンプリント

シリーズ現代の作家 追悼・木村利三郎

2017年1月5日(木)～4月9日(日)

町田市立国際版画美術館では「シリーズ現代の作家」と銘打って、現代の版画家をご紹介してきました。今回はニューヨークを舞台に活動した画家・版画家の木村利三郎(1924～2014)の作品を展覧します。彼は当館の初代館長である久保貞次郎と親交のある美術家でもありました。

木村は1924年に横須賀市で生まれ、法政大学哲学科在学中に独学で油絵を習得。1954年に同学を卒業した後は逗子市のアトリエで制作を続け、横須賀基地で絵も教えていました。そこでアートの先進地ニューヨークの様子を耳にした木村は憧憬を募らせ、1964年に単身渡米します。その後、木村はニューヨークで出会ったスクリーンプリントで「都市」をモチーフとした色鮮やかな版画を制作し、アメリカやヨーロッパで高い評価を得ました。

すでに所蔵している約350点にくわえ、2015年度にご遺族からご寄贈を受けたことで当館の木村利三郎コレクションはさらに充実したものとなりました。「都市の構造と崩壊」という独自の視点から生まれた「リサ」こと木村利三郎の世界をご堪能いただきます。

(学芸員 藤村拓也)



木村利三郎「City 326 A」
1970年代後半? スクリーンプリント

版画の祭典2016 第41回全国大学版画展
12月3日(土)～12月18日(日)

Present for You - 新収蔵作品展
2017年1月5日(木)～2月19日(日)

入場
無料

第30回 町田市公立小中学校作品展
2017年1月12日(木)～2月19日(日)

- ①中学校美術作品展 1/12(木)～1/22(日)
- ②小学校図画作品展 1/27(金)～2/5(日)
- ③小学校書写展 2/10(金)～2/19(日)

町田市立国際版画美術館友の会 第19回定期総会報告

4月16日(土)13時30分より第19回定期総会が版画美術館講堂にて開催されました。すべての議案審議は原案通り可決承認されました。なお、友の会新入会員には、村田哲郎館長の直筆カードが進呈されることになりました。審議終了後「10年継続会員」9名の方々の紹介があり記念品が贈与されました。なお、10年継続会員の方々は次の通りです。

黒崎 剛(賛助会員)、渡辺静子、
岩上久雄、倉田博喜、木村修一、
今村 直、藤塚 弘、永島サト
子、馬場政明(敬称略)



今回は総会決議終了後、当館学芸員による企画展特別ブ
レトーク「森羅万象を刻む—デューラーから柄澤齊へ」が
行われました。作品を間近に覗き込むことができ、参加者
は熱心に講話に聞き入る姿が見受けられました。

「友の会10年継続会員」の表彰を受けて

当日は、懐かしいお顔がちらほらと見受けられ、皆様方
の頑張っているお姿を拝見し、嬉しく思いました。

一方、会員が減少しているとの事で、会員増強が話題に
上っておりました。

現代は、各種団体、サークル等は会員減少に歯止めが掛
からず、如何に増強するかが悩みの種で、つい目は若い人
に行きがちですが、「団塊
の世代は、定年後の生き甲
斐を探しています。お金も
持っています」というのが
私の考えですが・・・



友の会会員 黒崎 剛

友の会バス見学会

2016/6/9実施

見学場所：北澤美術館・サンリツ服部美術館・ハーモ美術
館

本年度20回目のバス見学会を実施しました。これまでの
軌跡を最終ページにまとめました。

担当の方々のご尽力により、魅力はあっても個人ではな
かなか行きづらい美術館に美味しいランチつきで安全・安
心・安価で連れて行っ
ていただき心より御礼
申し上げます。お得な
友の会オリジナルバス
見学会にぜひ皆様参加
しましょう。(nk)



バス見学会2016 ハーモ美術館にて

私の一枚 「横山大観の富士山」

私の少年期は東京の下町、湯島に育ちました。今考え
てみると、とっても活発な子で、母親にだいぶ心配をかけ
たようだ。物心ついた頃から走るのが大好きで、入学
式の時に真っ直ぐな廊下を見るや、いきなり走り出し先
生に注意された。遠足で稲毛海岸に潮干狩に行き、開始
の合図とともに勢い良く走り出しガラスの破片を踏んで
大ケガ、学校の屋上で相撲を取り、もつれあって共に倒
れ、「ボキッ！」左鎖骨骨折で1ヶ月お茶の水の名倉病
院に入院(保険に入っていたのか?)。又、神田明神に
隣接する湯島聖堂内にある竹林から七夕用にと無断で
しっけいして塀から飛び降り「グサッ！」下に置いて
あった材木の釘を踏み抜く、それが化膿し順天堂病院で
手術、夏の臨海学校では、集合写真を撮るので砂浜に置
かれた飛び込み台に乗るようと先生から指示があり、
真っ先に登り天辺で校旗を持ち座っていた。生徒が片側
に乗ったため飛び込み台が「グラッ！」と傾き倒れて
いった。とっさに飛び降りたが旗が顔に被さり落下！右
手骨折等々、親にはずいぶん心配をかけ、お金も使わせた

ようだ。ところで
大観の富士山の件
ですが、これも小
学校でのこと、他
組とのケンカが始
まり玄関ホールに
あった大きなゲタ
箱を倒してしま
い、その結果数名
が地下の理科室に



横山大観「心神」1952年

入れられ反省させられた。そして校長室に連れて行かれ
お説教された。校長室の壁に富士山の絵があり眺めてい
た記憶がある。どうもそれが横山大観のものであった。
大観は湯島小学校の卒業生であり、屋敷も上野池の端に
あった。ある日屋敷の前に整列し、そこを黒塗りの車が
静かに通り過ぎ一礼した覚えがある。大観の葬儀であっ
た。※話はまだまだ続きますがこの辺で!!

友の会会員 大森 昭

第18回「ゆうゆう版画美術館まつり」開催

2016 10/8日(土)・9日(日) (版画美術館・友の会共催)

催事内容(予定)

- ★チャリティ・アートバザール2016 ★木版摺り体験
 ★市域大学生アートイベント ★記念講演
 ★デザイン原画展 ★ゆうゆうコンサート
 ★キッズアートスペース ★飲食・物品コーナーなど

本年もキャッチフレーズ「版画でひろがるアートの町田」のもとに多彩なイベントが繰り広げられます。会員皆様のご協力と、多数のご来場お待ちしております。

《バス見学会行程一覧》 平成9年～28年実施

	実施日	見学場所	参加人数
# 1	H9.11.8	川村記念美術館・国立歴史民俗博物館	42
# 2	H10.11.8	鹿沼市立川上澄生美術館・栗田美術館	46
# 3	H11.11.27	池田満寿夫美術館・東山魁夷館	44
# 4	H12.5.27	静岡県立美術館・ベルナル・ピュフェ美術館	49
# 5	H13.6.2	水戸芸術館・茨城県近代美術館・偕楽園散策	53
# 6	H14.6.1	富岡市立美術館・福沢一郎記念美術館・群馬県立近代美術館	49
# 7	H15.6.5	ヴァンジ彫刻庭園美術館・ポーラ美術館	50
# 8	H16.6.24	山梨県立美術館・村内美術館	42
# 9	H17.6.25	資生堂アートハウス&企業資料館・天竜市立秋野不矩美術館	40
# 10	H18.6.29	フジヤマミュージアム・山中湖美術館	44
# 11	H19.6.6	足利市立美術館・館林美術館	36
# 12	H20.6.26	横須賀美術館・カサヤの森美術館	44
# 13	H21.6.24	原爆の図丸木美術館・河鍋晩斎記念美術館	26
# 14	H22.6.17	市川市東山魁夷記念館・吉澤ガーデンギャラリー	32
# 15	H23.6.15	千葉市美術館・ホキ美術館	25
# 16	H24.8.30	鹿沼市立川上澄生美術館・佐野市立吉澤記念美術館	31
# 17	H25.6.26	那珂川町馬頭広重美術館・宇都宮美術館	30
# 18	H26.6.19	ベルナル・ピュフェ美術館・ヴァンジ彫刻庭園美術館	32
# 19	H27.6.26	軽井沢現代美術館・セゾン現代美術館・軽井沢タリアセン	31
# 20	H28.6.9	北澤美術館・サンリツ服飾美術館・ハーモ美術館	23

友の会会員募集中!

《会の目的》・版画美術館の事業活動支援・会員の教養、親睦を深める・美術、文化および地域文化の向上

《主な特典》美術館企画展がすべて無料で観覧、友の会主催行事に参加できます♪

《年会費》一般会員3000円(入会年5000円)・ファミリー会員2000円(入会時3000円)・学生会員2000円(入会年も同じ)・賛助会員1口10000円(法人・個人不問・口数任意・各種特典あり)

※申し込みは友の会事務局へ

予定

各種講座・サークル予定

■アートスクール

□絵画教室「やさしい水彩画講座」

9/16・10/21・11/18午後 受講料 12,000円

講師：野澤奈穂子

□銅版画教室(全6回)

12/10,24, 1/7,14,21,28 受講料 30,000円程度

講師：版画家 間友友里恵先生・伴野奈保子先生

■美術館めぐり 11月予定

■森のコンサート 3月予定

■友の会会員のサークル活動

▽弥次喜多倶楽部(番外編第2回)

11月30日(水)

見学場所：東京都庭園美術館、自然教育園、松岡美術館

▽木版画倶楽部

毎月第3水曜日 第4木曜日

13:00～16:00友の会事務所にて実施

月1回館内アトリエ使用予定

今年度テーマ：カレンダー

10月より年賀状作成始めます

事務局だより

- 2016年度定期総会4/16
- 企画展内覧会支援4/28
- 第1回合同部会5/20
- 2016年度第1回理事会、まつり第1回運営委員会6/7
- まつりチラシデザイン募集要項送付6/17
- まつり第2回運営委員会・第1回催事リーダー会6/24
- まつりチラシデザイン審査委員会8/3
- まつり第3回運営委員会・第2回催事リーダー会9/2

2016年度友の会事務局スタッフ

事務局長 小林文子 事務局次長 滝沢富夫

総務部長 白杵真瑤美 副部長 加藤歌子・鬼頭加寿代

事業部長 荒井良一 副部長 尾作信子・大久保知明

広報部長 黒田奈生子 副部長 井戸上千鳥

会 計 土屋勝子・古田京子

編集後記：刻々と減っていく友の会会員数。版画美術館と共に歩み続けて19年。

活路は団塊の世代への橋渡し。まずは1本釣りか。(nk)

編集スタッフ：浅野 茂・井戸上千鳥・大久保知明・岡田節子・黒田奈生子・清水敬造